

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

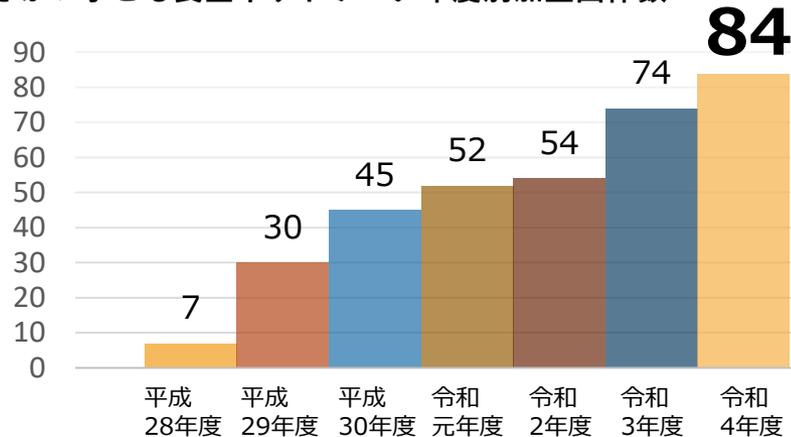
取り組む方向性 2 つながりをつくる

○さかい子ども食堂ネットワーク【取組 1）取組 2）取組 3）】

市内の子ども食堂の輪を広げていくことを目的として、子ども食堂を実施する団体間の交流や情報共有をしたり、人材や食材のマッチングなどの支援を実施。

コロナ禍においても団体数は年々増加している。また、企業や団体、個人からの応援が多数寄せられており、多様な主体との協働や多様な人の参加が促進されている。

さかい子ども食堂ネットワーク年度別加盟団体数



さかい子ども食堂円卓会議

(年3回)

子ども食堂の実践者や応援している企業などが集まってつながる場

〈令和4年度〉

第16回 7月7日 約90名

第17回 11月29日 約80名

第18回 3月実施予定



令和3年度 寄附実績

寄附等のマッチング

マッチング新規相談件数：60件

常設型フードドライブ

178件 2823個 1.6t



- ・さかい子ども食堂ネットワーク加盟 84団体
- ・子ども食堂の小学校区別充足率58.7%
(子ども食堂が1つでもある校区 54/92小学校区)

**基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます**

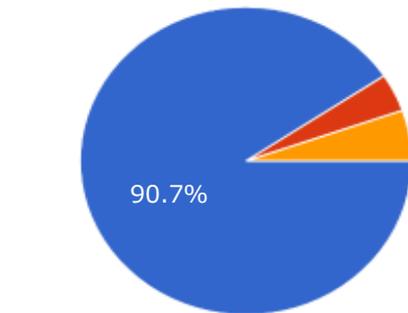
重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

〇コロナ禍での子ども食堂の活動状況（令和4年7月末調査）

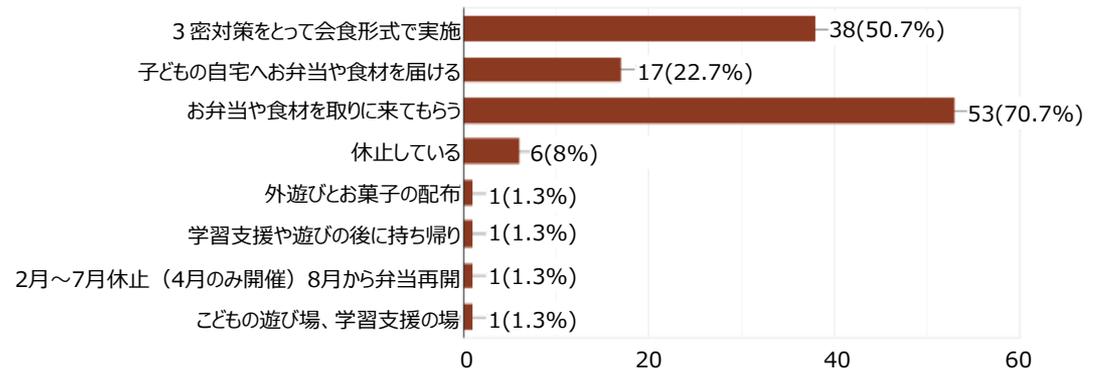
コロナ禍においても約90%の子ども食堂で活動が継続して実施されている。3密対策をとったの会食形式に加え、お弁当の配布や食材の配布など工夫して取り組まれている。

今年度の子ども食堂の活動予定
（お弁当・食材の配布も含む）
75件の回答



- 現在活動を実施している
- 現在活動を中止しているが、今年度中に活動を再開する予定である
- 今年度中活動を再開する予定はない

食事の提供方法について（複数選択可）
75件の回答



**基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすすめます**



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○子ども食堂×文化芸術～子どもたちに文化芸術体験の機会を届ける～

【取組1）取組2）取組3）】

多様な主体との協働や多様な人の参加の促進を推進するため、堺市文化振興財団の「まちなかアートプロジェクト」に、さかい子ども食堂ネットワーク事務局（堺市社会福祉協議会）が協力し、市内の子ども食堂でプロのアーティストによるワークショップを実施。令和4年度は3つの子ども食堂のマッチングを行った。

アーティストが年間を通して子ども食堂と関わり、共に企画・実施しており、各子ども食堂で4～6回のワークショップが行われた。

実施団体	実施内容
堺区 英彰こども食堂ここなら	「なりきるワークショップ」4回 ドラマティーチャー
堺区 にしのこ◎まんぷく食堂	「にしのこハラペコダンスクラブ」5回 ダンサー・パフォーマー
西区 いづはまスマイル食堂	「おんがくで遊ぼう！ワークショップ」6回 音楽ワークショップリーダー、ソプラノ歌手、 クラリネット奏者、サクソ奏者



ワークショップの様子

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○企業による校区福祉委員会へのプログラム支援（堺市全域）
【取組 1）、取組 2）取組 3）】

多様な主体との連携を推進するため、社会貢献をしたい企業と、活動の負担感やコロナ禍で中断した活動の再開に悩む校区福祉委員会の橋渡しを第 1 層生活支援コーディネーターが実施。校区福祉委員会が実施する集える場において企業の強みをいかしたプログラムが新たに 2 社、計 28カ所 30回 681人に対して実施された。

花王カスタマーマーケティング株式会社

<花王いきいき講座>

・実績：10カ所、12回、275人

【講座内訳】

- ・くらしの簡単キレイ講座 5回
- ・いきいきメイク講座（大人メイク） 7回



資生堂ジャパン株式会社

<資生堂アクティブシニア講座>

・実績：18カ所、18回、406人

【講座内訳】

- ・すっきり頭皮ケアコース 8回
- ・うるおうハンドケアコース 10回



基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

- 日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)、取組2)、取組3)】
有償の生活支援サービスの立ち上げを支援（堺区、小学校区域）

背景

集合住宅の建替えによる転居に、自身だけでは対応できない住民が複数おり、地域の一般財団法人や社会福祉法人等（地域の支援者）とともに転居を支援。支援の中で制度福祉のみでは支援が行き届かない住民が多くいることが明らかになった。

協議・検討

地域の支援者との情報交換会を開催し、地域課題の共有と対応策を検討した。そのなかで有償の生活支援サービスの開発を行うこととなった。

立ち上げ

電球交換、通院同行、家財整理、ごみ捨てなど、日常の“ちょっと困った”をお手伝いする有償サービスが立ち上がった。

ほんのちよっとのおたすけ隊

ちよっと隊

電球の交換、窓ふき、荷物の上げ下ろし、家具の移動
など日頃の、「ちょっと困った」をお手伝いします!!!

料金

【30分100円】 【60分500円】

※上記の料金は「ちよっと隊」一人分です。複数人必要な場合は、人数分の料金が発生します。

また、内容によっては、お断りする場合があります。

受付日時：平日9:30～17:00
★事前にお電話ください★

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

- 日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)、取組2)、取組3)】
自治会館開放と校区ボランティアビューローの立ち上げを支援（中区、自治会等のエリア）

背景

自治会員の高齢化や新規加入者の減少により、自治会活動の負担感が増えていた。さらに、コロナ禍での行事中止により住民の交流が希薄化していた。

支援・調整

地域ケア会議の開催と協議体の設置を行い、地域組織と多様な福祉専門職が地域課題の共有を実施。その課題解決に向け、それぞれの強みをいかした取組を検討した。

立ち上げ

3密を避けた住民同士の交流機会を創出。
自治会が自治会館を住民に定期的に開放し、校区福祉委員会も協力して「交流・情報・相談」の機能（校区ボランティアビューロー）を兼ね備えた交流スペースが立ち上がった。



活動風景 フリードリンク（お菓子付き）



子育てサロンも併設

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○休眠預金活用事業による居場所の取組

西区におけるモデル実施（2つの柱）

①居場所の包括連携づくり

地縁組織による居場所と子ども食堂の居場所の包括連携をめざし、ヒアリングや対話の場を通じて、新たな居場所づくりや協働の取組を進めている。



モデル校区における地域活動者の対話の場面



モデル校区の子ども食堂の対話の場面



モデル区の子ども食堂への多様な主体によるプログラム提供。
文化振興財団「まちなかアートプロジェクト」（再掲）

②イエローシグナル相談体制づくり

子ども食堂等の身近な居場所で発せられる子どものイエローシグナル（予防的相談）を受け止め、早期対応することで重篤化を予防する相談支援体制の構築に向け、専門職の協働をすすめるソーシャルワーク研修を実施。

**基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすすめます**



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○今後の課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が長期化しており、アフターコロナにおける地域福祉活動をどのように進めていくかが大きな課題となっている。

◎重層的支援体制整備事業に向けた「居場所」のさらなる確保【取組1)②】

- ・日常生活圏域コーディネーターによる地域活動の活性化と創出の継続
- ・重層的支援体制整備事業の実施に向けて、課題発見から支援につながる「居場所」、課題を抱える人を受け止める「居場所」の確保
- ・「居場所」同士の有機的連携

◎多様な主体との連携と多様な人の参加の促進【取組1)③、取組2)②～③、取組3)②】

- ・企業やNPO、職能団体などとの協働による活動の創出
- ・福祉以外の文化芸術、まちづくり、スポーツなど多様な分野との協働による「居場所」の創出

◎効果的な情報提供【取組1)③】

◎有償やビジネスの視点を含めた活動【取組3)③】